

「クラゲの水族館」

「水槽の中でクラゲが漂う姿に癒される」という人は意外にも多く、各地の水族館でクラゲの飼育が盛んになっています。一番よく見るのは「ミズクラゲ」です。日本沿岸(というよりも世界中の温帯の海岸)のどこにでもいるクラゲです。満潮前後の日には、私の住んでいる門前仲町の大横川(海と直接つながっています)にも漂っていて、通勤の途中でも観察できるほどです。

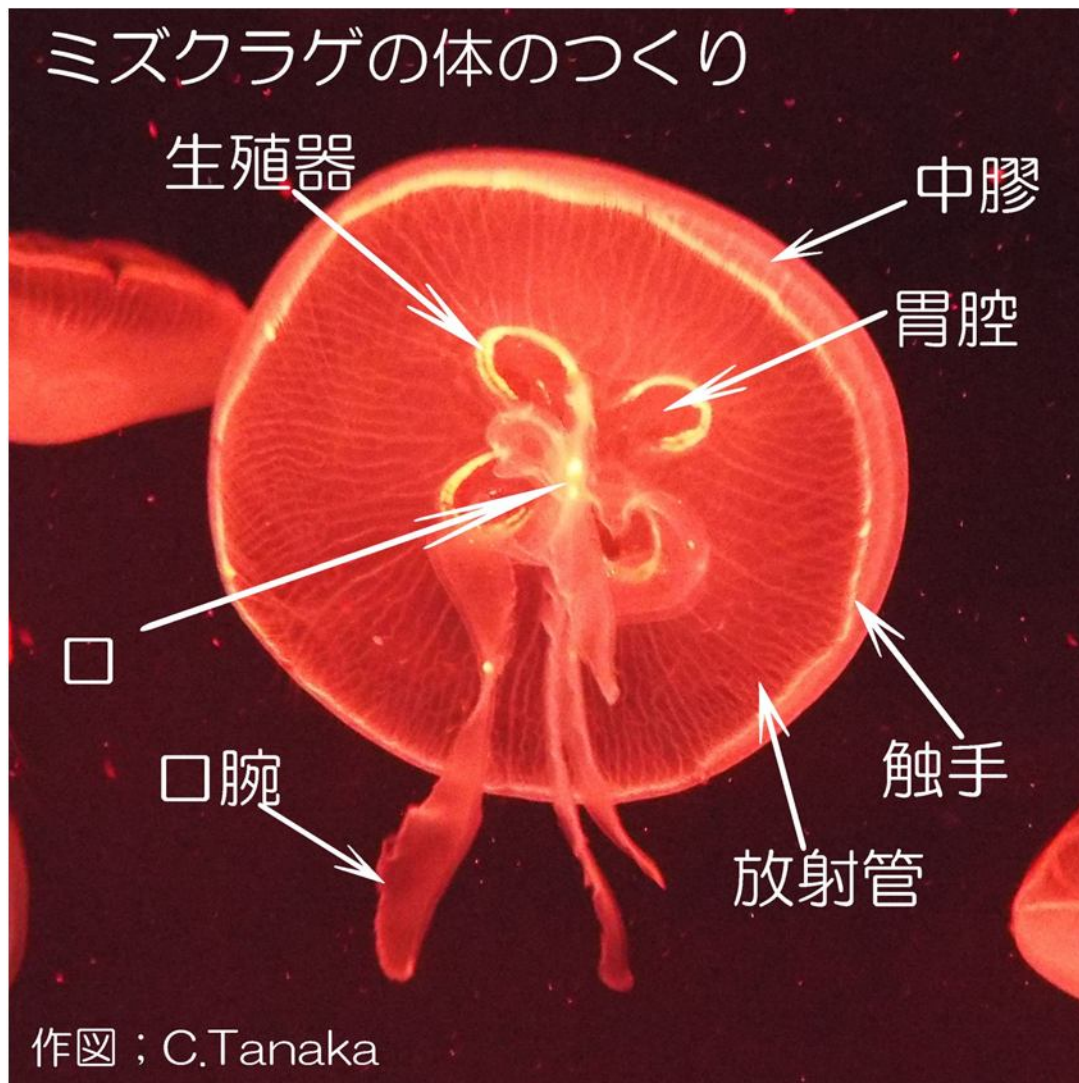
ミズクラゲは名称の通り、水分の割合が 95%以上もあり、ほとんど水でできています。しかし、ミズクラゲの泳ぐ能力は非常に低く、普通のろ過装置ではそのまま吸い込まれてしまうので、人工飼育が非常に難しいそうです。その飼育方法を世界で最初に開発したのが、江ノ島水族館です。すみだ水族館にも多くの種類のクラゲが飼育されていますが、一番大きな水槽にいるのが、ミズクラゲです。



「ミズクラゲ」 *Aurelia sp.*

大きな専用水槽の中を、たくさんのクラゲがフワフワ漂っていました。確かに癒される気がします。学名の”*sp*” というのは、「～属の一種」のことで、「アウレリア属の一種」という意味です。この水槽はライティングにも工夫があり、青、紫、赤とゆっくり変化します。ミズクラゲの体は半透明なので、いろいろな色に変化して幻想的です。

ミズクラゲの体をよく観察すると、中央から4つのリングが放射状に出ているのがわかります。これは生殖器です。これが眼のようにも見えるので、別名「ヨツメクラゲ」とも呼ばれます。



ミズクラゲの体のつくりは、非常に単純です。肉眼で確認できる、器官と呼べそうなものは、上図の8種類しかありません。実はミズクラゲには心臓すらまともにはないのです。クラゲが傘を開いたり閉じたりしているのは、さまざまな役割があります。一つは「泳ぐため」ですが、これはあまり得意ではありません。一生懸命に泳いでいるように見えますが、わずかな水流でも流されてしまいます。二つ目が「捕食のため」です。傘の開閉で水流を作り、口から胃腔に餌を流し込むのです。触手にプランクトンをからませる役割もあります。三つ目が重要です。ミズクラゲにとっては、実は、傘の開閉そのものが、心臓の役割をしているのです。

誰もがこの不思議な生物の水槽の前で足を止めます。体を広げたり縮めたりしながら移動しているようにも見えますが、基本は「浮遊」です。よく見ると、水槽全体に非常に弱い水流が作られていて、その水流に乗って漂っているのです。漂う間に、たまたま近くにあった餌を食べるという生活です。極楽ですね、これは。人生設計もあまり必要ありませんし、「日々の理科」を書く必要もありません。クラゲに比べたら、人間の生活は何と忙しい（せわしない）ことでしょう・・・。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)